

「赤ちゃんふれあい事業」の実施について

子ども家庭部
学校教育部

1 目的

本市では、次代を担う思春期の子どもたちが、いのちの大切さや妊娠・出産に関する知識を学び、赤ちゃんやその家族とふれあう体験を通じて、いのちの尊さや家族への感謝、子育ての喜びを育む「赤ちゃんふれあい事業」を実施する。

現在、取り組んでいる中学校もあり、参加した子どもたちの自己肯定感や豊かな人間性の形成など変容が見られ、次代の親づくりという視点からの効果も高いことから、広く全市的に実施し、多くの子どもたちが体験できるための基盤づくりを行う。

2 実施方法

市から、八南助産師会への委託により事業実施し、各学校へ派遣（事前打ち合わせ・授業等実施）する。

3 実施計画

平成 28 年度は、10 校で実施予定（市のアクションプラン上の予算枠）。
今後、全校で実施できるよう、予算枠を拡大していく予定。

4 取り組み例

いのちの大切さを理解し、正しい知識を身に付けるとともに、赤ちゃんや妊婦とふれあう体験を行う。

（1）いのちの授業

助産師から、命が宿るところから胎児の成長、出産に至るまでの知識について学び、命の不思議さや大切さについて考える。

（2）妊婦体験・育児体験

助産師の指導の下、胎児の心音を聞いたり、妊婦体験ジャケットによる妊婦体験、赤ちゃん人形を使ったおむつ交換や抱っこの仕方の実習などを通じて、妊婦やお母さん・お父さんの気持ち、育てる苦労を理解する。

（3）赤ちゃんふれあいタイム

実際に赤ちゃんを抱っこさせてもらったり、お母さん・お父さんから子育ての話や出産にまつわる話を聞いたりして交流する。



平成 27 年度の授業の様子

5 スケジュール

平成 27 年 11 月 「赤ちゃんふれあい事業に関するアンケート調査」を実施
12 月 平成 28 年度の実施校を、学校と調整の上で決定。

子どもの参画と子どもの意見（表明・聴く）

(1) 意見

